

——鋼材価格の高騰は極めて大きな課題だが。

する、価格上昇分の理解を求めるなどの方法がある。何らかの対応が必要だとの認識は持っているが、社内の調達担当が営業など関係部署と連携を図り、メーカー、設計など関係企業と情報を共有するには、契約で材料を「別途協議」する方法がある。あ

自社でも、進した物についても、鋼材価格が高騰の影響を懸念

钢材価格が高騰の影響を懸念

識している。そのための社内の情報共有、技能者の育成、図面の精度の向上、コストダウンなどを引き続き推進していく。また、受注時は最後まで責任をもつて製作による製品づくり遂げるという意味で本的に外注に頼らず

を見込んだ投資を推進していく。一方、技術開発では、JFEスチールや神戸製鋼所と極厚ボックスの溶接条件の設定などで共同実験を行っている。顧客ニーズ、十分に応えることができるように新たな技術開発は積極的に取り組んでいきたい――ほかには。

人材育成も重要なテーマだ。優秀な人材をいかに育てるか、人事制度の見直しを含め、職場のモチベーションをどう高めるかなど検討を進めていきたい。そのため専門のコンサルタントを投入して、今後も重点的に推進していく予定だ。

(聞き手)大熊稔、文中敬
(称略)

金本 当社は9月決算だが、75期（2020年10月1日～21年9月30日）の受注は順調で、工場の山積みも高い状況にある。売上高で190億円、経常利益15億円を達成すると見込んでいる。76期の山積みもぼりまっているが、大型再発案件の工程がおおむね3

い。また、ここにきて鋼材大型案件の対応に注力したことになる。工程を含めたクス構造を伴う超高層案件が少なくなっているということ注しているが、当社が得意とする、いわゆる4面ボックの案件はコンスタンートに受ける関係で、引き合いも少なくなっている。中規模

からといって仕事を断る訳にはいかない。その意味でこのテーマは非常に難しい問題と捉えている。

——具体的な対応は。

金本 リスク回避のために、調達時の購入価格を予測して見積額を提

金本 超高層を手掛ける
にしても、4面ボックスの
量や難易度などを
図面から読み取る
力量、技術的な提
案を含めて「川岸
に頼めば大丈夫」
という信頼感やも
の造りのニーズに
——重点事項は。

工場は4面ボックスを生産可能で、大阪工場は梁をうろこに生産している。そして、その工場の特徴や機能を生かして効率的に物件の切断分けを行っており、この体制を強化していきたい。

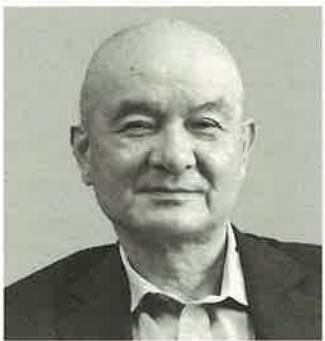
——設備投資や技術開発への対応は。

求を常に念頭において業務を進めていく必要がある。その実現のための具体的な一例だが、生産設計部でBIM関連の開発事業をスタートした。例えば図面上の取り合い、配管、收まりなどタブレットを使用して図案等を映像として“見え化”を図り、積算や材料

大手ファブ トップインタビュー③

2021年 わが社の 経営戦略

川岸工業



金本 秀雄社長

しながら総合的に判断していくことが基本となる。た

にこだわっていきたい。

ブリケーターの力量とは何
なのか。その答えの一つが
企業姿勢であることを忘れ

当社は国内に5つの工場を保有し、年間合計7万㌧の鉄骨を生産している。内訳は東京で約4万㌧、西日本の3工場で3万㌧となる。東京は第一工場が4面ボックスをメーンに生産、第一工場も超高層案件を手掛けている。西日本のうち山口工場は4面ボックスを生産可能で、大阪工場は梁をコンクリートに生産している。そこで、各工場の特徴や機能を生かして効率的に物件の取り分けを行つており、この体制を強化していきたい。

——設備投資や技術開発への対応は。

ブリケーターの力量とは何なのか。その答えの一つが企業姿勢であることを忘れてはならないと考えている。それは単に生産量だけではなく、顧客の信頼に十分に応えていく力、あるいは人々を見据えた提案がどれだけできるかなど、顧客の要求を常に念頭において業務を進めていく必要がある。